



山本嘉孝 講師

文学研究科・文学部
日本文学

私がアメリカに留学したのは、高校3年間と大学4年間の合計7年間（2001～2008年）です。ただし、私自身は「留学」という仰々しい言葉があまり好きではなく、アメリカへは単に「行った」あるいは「行かせてもらった」だけのつもりです。

単身15歳でアメリカに渡った理由は幾つかありますが、第一に、高水準な教育を英語で受けたかったからです。小学4・5年生のとき、父親の転勤に随ってマレーシアに住んだ際、インターナショナルスクールに通い英語を身に付けましたが、それを更に伸ばせるような場が日本にありませんでした。また、国語や歴史など人文学系の科目で、質問や意見の発言が常に求められ、作文の課題が多く出される環境に身を置きたかったのですが、そのような高校は国内で見つけれませんでした。10代前半の私は、「模範解答」の作成が中心の勉強に魅力を感じることができず、また「日本の大学は遊ぶ所だ」と話す大人が周りに多くいたため、海外に出るしかないと思いました。勿論、今の私は、万国どこでも勉強する人は勉強し、遊ぶ人は遊ぶ、ということをよく知っています。ただ、当時の未熟すぎる私は、「アメリカに行かなければ勉強に打ち込めない！」と、本気で必死に思い込んでいました。

母親がアメリカ文学研究者・翻訳家ということもあり、アメリカは私にとって幼いときから非常に身近な存在でした。居間には英文の原書が積み上げられ、食卓横には英和大辞典が常に開かれた状態で鎮座しているような家で育ち、親と観るテレビのニュースはNHKとCNNが半々でした。しかし、アメリカで暮らすのは初めてのことで、最初の1年間どころか、7年間ずっと日本が恋しく、日本にも海外にも居場所の無い状況が長らく続きました。今も、「日本人」としての確固たる自己認識を持ちつつも、本当の意味で自分が何人なのかよく分か

らないことが多いのですが、遠くから祖国日本を想い続けた7年間は、日本文学研究者のはしくれである私の思考や情操に測り知れないほど大きな影響を及ぼしています。

アメリカ滞在中、私が一番力を入れていたことは、英作文です。より具体的には、英語を母語とする同世代の人よりも「上手な」英語の文章を書くことを目標にしていました。文章の種類は、主には文学や歴史の授業のためのレポート(essay)でしたが、高校生のころは、短編小説や現代詩も書いていました。現在の私が専門としている日本漢文学研究では、日本人による中国文学の模倣がよく取り上げられます。模倣が力不足の表れのように言われることもあります。むしろ唐人の人に負けないような優れた詩文を作ろうとした（あるいは作ることもできた）証かもしれないと考えます。私も、読書の合間に吸収した「これぞ」と思える英語の単語や言い回しを腹中に貯めておき、自分の英文・英詩にちりばめることが多くありました。それは「真似」や「英米人になること」では全くなく、むしろ「日本人を代表して、本場の人よりも上手く書いてみせるぞ！」というような、甚だナショナルスティックな意気込みにもとづくものでした（本当に上手く書けていたかはさておき・・・）。



アメリカの大学の寮にて、
2007年

文学研究科・文学部 国際連携室

国際連携室では、年間を通じて様々な行事や企画を実施しています。留学生だけでなく、文学研究科・文学部の学生を対象としたプログラムもあります。2017年度には以下の行事を実施しました。

(*は留学生のみ対象)

■ **部局間協定校 派遣学生募集** 文学研究科・文学部協定校へ交換留学する学生の募集です。

2016年度 追加募集 ①2月1日(水)～2月24日(金)、②4月10日(月)～4月21日(金)

2017年度 本募集 8月1日(火)～8月30日(水)

2017年度 追加募集 ①2月1日(木)～2月23日(金)、②4月9日(月)～4月20日(金)

■ **タンデム学習プログラム** 留学生と日本人学生のペアでお互いの言語や文化を学びます。

前期と後期にそれぞれのプログラムがスタートします。

前期スケジュール 参加者募集 4月5日(水)～4月20日(木) 親睦パーティー 6月12日(月)

後期スケジュール 参加者募集 10月3日(火)～10月17日(火) 親睦パーティー 12月4日(月)

プロジェクトの詳細についてはFacebook、HPをご覧ください。

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/OsakaUTandem>



HP <http://www.let.osaka-u.ac.jp/kokuren/tandem/index.html>



■ **新入留学生オリエンテーション*** 新入留学生を対象としたオリエンテーションです。

4月4日(火) 博士後期課程1名、博士前期課程3名、研究生18名(研究科4名、学部14名)、特別聴講学生8名(学部5名、研究科3名)

10月2日(月) 特別聴講学生5名(Erasmus Mundus 留学生、研究科5名)

10月3日(火) 研究生14名(研究科3名、学部11名)、特別聴講学生28名(研究科5名、学部22名)、特別研究学生3名

それぞれの開催日に参加できなかった新入生には、後日個別説明を行いました。

■ **チューター説明会** はじめて留学生チューターを担当する学生を対象とした説明会です。

前期は4月21日(金)、後期は10月20日(金)に開催。当日出席できない担当者には個別に説明しました。

■ **英語研修プログラムの募集案内** 大阪大学で実施されている語学研修です。募集時期は目安です。

プログラム名	募集時期	実施時期・期間
エセックス大学 夏期語学研修プログラム	4月上旬から4月下旬	8月下旬から9月下旬(5週間)
グローニンゲン大学 短期訪問プログラム	4月中旬から5月上旬	8月中旬から9月上旬(2～3週間)
モナシュ大学 春季語学研修プログラム	10月中旬から11月上旬	2月末から3月末(1ヶ月)

■ **留学説明会** 5月16日(火) 文学研究科・文学部学生を対象とした説明会です。

学内選考や留学先大学への申請手続やスケジュール、奨学金についての説明の後、交換留学経験者の体験談を聞き、渡航準備や現地での生活だけでなく、帰国後の就学や就職活動などについての質問にも答えていただきました。

■ **「ゆめ基金」応募者募集** 交換留学制度を利用する文学部学生を対象とした奨学金です。

2013年からスタートしました。6月30日(木)、2月23日(金)を選考基準日として募集し、選考のうえ採用者を決定しました。

■ **ハイデルベルク大学**

ISAP(Internationalen Studien- und Ausbildungspartnerschaft)特別講演

4月6日(木) Viatcheslav Vetrov 助教に「『淮南子』における光と闇の象徴性」、10月12日(木)

Judit Árokay 教授に「日本文学史の『古典』とは？」と題して日本語でご講演いただきました。



■ 着物教室* 12月8日(金)

参加者の好みに応じて一着を選んで着付けていただき、思い思いのポーズで写真に納まりました。

今年度の実施案内はHPやFacebook、ポスターなどでご確認ください。

■ ランチタイム交流会

4月14日(金)、10月13日(金)

軽食を摂りながら、学生、教職員が学期初めのお昼のひとときを一緒に過ごしました。



留学プログラムや留学派遣学生の募集情報はHPやFacebook、KOANを通じて案内します。

学生派遣・受入れのデータ

留学派遣 (2018年2月1日付、休学事由「留学」を含む)

研究科 23名

在籍学年		渡航先		
後期3年	13	フランス	7	アイルランド、オーストリア オランダ、スペイン、チェコ 各1
後期2年	4	ドイツ	5	
後期1年	1	イギリス、 中国	各3	
前期2年	2			
前期1年	2			
修士2年	1			

学部 19名

在籍学年		渡航先		
学部4年	12	ドイツ	5	イギリス、インド、インドネシア、オーストリア カナダ、スウェーデン、スリランカ、チェコ フィンランド、フランス、台湾 各1
学部3年	6			
学部2年	1	アメリカ	3	

語学研修等 (2018年2月1日付、大学主催の研修参加者)

研修名等	研究科	学部	研修名等	研究科	学部
モナシュ	—	1	CampusFrance	—	1
エセックス	1	4	その他	5	—
グローニンゲン	1	—			



留学体験記

エセックス語学研修 留学体験記

西洋史学専修 3年 協阪 憲
イギリス エセックス大学夏季語学研修プログラム (派遣時 学部3年)

5週間の海外研修。海外への渡航経験があまりなかった私にとって出発前にはとても長く感じられました。日本とは異なる生活環境への期待もありましたが、当然不安感も入り混じっていました。しかし、研修を終えて日本へ帰る頃には、「まだもう少しこっちにいたかったな」と思ったのが率直な感想です。ここでは、充実したその研修の一部をご紹介します。

まずは、授業について。現地では、事前のテスト結果からクラス分けが行われ、能力に応じた授業を受けることができました。授業内容は、留学の受け入れの基準にも多くの地域で採用されている IELTS 対策から文法やプレゼンなど様々な分野に対応していました。中でも特に印象に残っているのは、どの授業でも周りの席の人と英語でコミュニケーションを行うことです。たとえば、ライティングや文法の授業であってもその内容やその時話題になっている出来事など頻繁に行いました。このおかげで、最初は

頭の中で伝える内容を日本語で考えてから英語に翻訳していて時間がかかっていたのが、だんだんと早くなりました。

この研修の中で、一番充実していたのが、授業外の行動です。研修参加者全員でのオックスフォードへの旅行や個人での様々な場所への旅行、また現地の人々との交流など積極的に動けば動くほど新しいことに会うことができました。特に、地元住民の方の家にお邪魔して夕食をご馳走してもらったときには、実際の暮らしぶりなどについて本当によく知ることができました。週末には少し遠出して有名な観光名所ではないけれども地元住民お勧めの場所を訪れたことも大切な思い出です。

このような経験をしながら人生の中でも匹敵するものがないくらい濃密な約5週間を過ごすことができ、先の留学を考えていた私にとって非常に刺激的でした。「また帰ってきたい」そう強く思わせる、とても有意義な研修でした。

「やらないで後悔するより、やって後悔。」

ドイツ文学専修 4年 周東 亜季
ドイツ ハイデルベルク大学 (部局間派遣、派遣時 学部3年)

私は大学入学前から、海外の大学で勉強することに興味がありました。きっかけは、中学生のときのことです。私は、市が主催する海外派遣事業に参加し、2週間ほどオーストラリアの高校で学ぶ経験をしました。ホストファミリーも現地の高校生も優しいし、景色は美しいし、何よりも日本と比べてのびのびとした雰囲気が魅力的でした。初めての海外は、楽しい思い出としてずっと私の中に残っていました。

大学に入学し、ドイツ文学専修に進んでからは、ドイツに1年間留学したいと思うようになりました。しかし、物事はそう簡単にうまくいきませんでした。両親の希望で、大学を4年間で卒業しなければならなかったからです。交換留学とはいっても、留学先での単位は阪大の卒業要件の単位に含まれず、基本的に阪大ですべての単位をとらないといけません。もしここで留学を決めれば、私の大学生活

は、留学を中心としたものになることは目に見えていました。でも、ずっと憧れていた留学を諦めることはどうしてもできませんでした。「やらないで後悔するより、やって後悔しよう。」と自分に言い聞かせ、留学することに決めました。それから私の大学生活は留学を中心に回り始めました。2年次には前後期ともに22コマほど授業を取り、放課後は留学資金のためにアルバイトをしました。所属していた部活動やサークルへの参加はめっきりと減りました。そうして慌ただしい2年間を過ごし、3年次から私の留学生活は幕を開けました。

今、留学したことに全く後悔はありません。でも、これから留学する方には、なぜ留学したいのかということを実際に考えてもらいたいです。ただ海外での生活に憧れがあるだけで留学を決めるなら、きっと後悔することになると思います。私がそうでした。

中学時代の海外経験が美化され、さらに、私は大学で他の経験を犠牲にしながら留学準備を進めたため、留学に対して過剰に期待していました。とりあえず、留学しさえすれば何かがあるという気持ちでいました。

はっきりと言います。何もありません。もちろん、留学を否定したいわけではありません。成功するかどうかは自分次第、という意味です。自分から働きかければ、周りは応えてくれます。助けてもくれるでしょう。

私は留学当初、理想と現実のギャップに苦しみました。でも、落ち込んでいても何も始まらないと考え、主体的に行動することにしました。すると、自然と友人も増え、いろんな人が手を貸してくれるようになりました。留学して半年後、ようやく自分の成長を感じる機会が増えていきました。

私の留学は、皆さんに胸を張って語れるほど、成功したのか分かりません。でも、留学前よりは少し

でも進歩したとを感じる場面があります。だから今、この経験に悔いがないのだと思います。

最後に、留学に際してお世話になった研究室の先生方、教務の方々、国際連携室の方々、家族、そしてドイツでできた友人に感謝申し上げます。ありがとうございました。



友人と、オクトーバーフェストにて

充実した留学生活

演劇学専修 4年 小國 真奈

アメリカ合衆国 カリフォルニア大学アーバイン校 (大学間派遣、派遣時 学部3年)

私は、2016年9月から2017年6月まで、アメリカ・カリフォルニア州のカリフォルニア大学アーバイン校に留学しました。

幼い頃からいつか英語が流暢に話せるようになりたいという夢があり、長期の留学はそれを実現するためにきつと有効だと思ったので、思い切って応募しました。

留学中一番大変だったことは、最初の1ヶ月ほど体調が優れない日々が続いたことです。カリフォルニアの乾燥した気候や、環境の変化からのストレス等により、ずっと咳が止まらず、左耳の調子も悪くなり耳が聞こえにくくなっていました。留学初期の色々な不安もあり、この時期は精神的にもしんどかったです。授業でまわりの学生と話すときに、耳は聞こえないし、英語もわからなくて、何度も聞き返さなくてはならないのは特につらかったです。自分の英語に自信がつき、友達も増え生活が充実してくると、次第に体調は良くなっていきました。また、英語で授業を受けることも最後まで大変でした。予想はしていたものの、論文を読んだり書いたり授業で発言したりすることは、日常会話とは別の学術的な英語力や理解力が必要とされ、なかなか厳

しいものがありました。困難を感じながらも、まわりの友達や教授、TAなどに頼りながらなんとか授業は出続けることができました。

アーバインという街はとても住みやすいところでした。人口のうち半数近くがアジア系であるためアジア食が豊富で、日本人在住者も多いため日本食屋も多く、そのほか多国籍な飲食店も多くあり、食生活はとても充実していました。また、アジア系移民やその二世が多いことから、見た目でも日本人



日本語を学んでいる現地の学生とカフェテリアで交流

の私はすぐ街に馴染むことができ、また、言語の面でも英語が第二言語であることに街自体が寛容だったように感じます。このようなアーバインという街に留学できた私はとても恵まれていたと思います。

最後に、私は学生の皆さんに在学中に交換留学を経験することをお勧めします。理由は、これだけの

長い期間を留学生として海外に滞在できるのは学生の特権であるということと、交換留学では留学先の膨大な学費を払わずに済むので、学費だけでもすでに得であるということです。成長の機会も必ずたくさんあると思うので、英語力や自分を磨くためにもぜひ交換留学に挑戦してください。

Trying out Something New

特別聴講学生 国語学 Teresa Leneke
交換留学生 (ドイツ ハイデルベルク大学)

When I decided to go back to Japan for a second year, I was not sure whether I wanted to go back to Tokyo where I had spent my last exchange year or whether I wanted to try out something new. In the end, I decided for the later because I remembered how much I had enjoyed my one-week stay in Osaka during my last exchange and I felt that it would be great living there for a longer time once. I remembered how helpful and nice the people and how great the food had been. Being a big Harry Potter fan and having the Universal Studios Japan with its Wizarding World close by might have also been a deciding factor.

Here I am now at Osaka University and my first semester is almost over already. But what a fun semester it has been. My major goal for this exchange was to increase my Japanese level as much as possible and to get used to doing presentations in Japanese. Being an exchange student here has proven very worthwhile because not only are there language classes for exchange students but I am also allowed to take part in regular classes with Japanese students. In the beginning, it was a bit scary to imagine having to hold a thirty-minute presentation in class, but after actually doing it, I feel a lot more confident and am looking forward to challenging myself even more next semester.

After classes are over, there is still much to do and to see. Osaka University offers a wide variety of extracurricular activities in all kinds of fields. I have been a passionate volleyball player for ten year now, so I was happy to learn that there was a competitive girls' volleyball club, which I joined promptly.

Practice is livelier than in Germany and exercises also differ so it took some getting used to but now it is great fun and I feel that I was able to grow again as a player.

If I still have some energy left after classes and practice, there are lots of places to visit: Umeda and the Expo Memorial Park are close by for sightseeing, fancy food or shopping and Kyoto, Nara and Kobe are also easily accessible. Osaka has proven to be a great choice and I plan to enjoy the rest of my stay to the fullest.



First time wearing the volleyball club uniform

教員派遣・受入れのデータ

教員海外出張・研修 (2018年2月1日付、届出のあったもの)

海外出張 延べ118名、129件

中国	17	ドイツ	9	シンガポール	イスラエル、エチオピア、オランダ カナダ、カンボジア、北アイルランド スイス、トルコ、ニュージーランド ノルウェー、ハンガリー、フィリピン フィンランド、ブラジル、フランス ペルー、香港、ロシア 各1
韓国	16	イギリス	8	スウェーデン	
アメリカ	13	オーストラリア	5	タイ	
台湾	10	アイルランド	各4	ベトナム	
		インドネシア		各3	
イタリア、インド、オーストリア スペイン、ポルトガル 各2					

海外研修 延べ8名、11件

ドイツ、タイ	各2	イギリス、オーストラリア、韓国、クロアチア、シンガポール スロバキア、台湾 各1
--------	----	---

外国人招へい研究員の受入れ (2017年4月から2018年3月)

- 袁 葉 (Yuan Ye) 中国**
2016年10月1日～2017年5月31日
俗語の魅惑：江戸時代における日本作者の中国白話文学作品
(飯倉洋一教授受入れ)
- 呉 水田 (Wu Shuitian) 中国**
2016年9月15日～2017年9月14日
広東水上居民“疍民”の社会文化地理学的研究 (片山剛教授受入れ)
- Sykora, Jan チェコ**
2017年1月16日～2017年7月15日
明治末期・大正期における消費社会の成り立ち及びその変遷
(飯塚一幸教授受入れ)
- 黄 小珠 (Huang Xiaozhu) 中国**
2016年10月9日～2017年10月8日
五山文学における蘇軾詩の受容に関する研究 (浅見洋二教授受入れ)
- 張 麗静 (Zhang Lijing) 中国**
2016年10月1日～2018年3月31日
谷崎潤一郎を中心とした大正期日本人作家の中国表象の研究
(斎藤理生准教授受入れ)
- Alexander, Rebekah 英国**
2017年2月1日～2018年1月31日
持続可能な開発、及び移民と人口統計の環境へのインパクトに関する研究
(宇野田尚哉教授受入れ)
- 柴谷 方良 (Shibatani Masayoshi) 日本**
2017年4月26日～2017年8月20日
準体法研究を中心とした機能文法理論の新展開 (齋聖汝講師受入れ)
- Vetrov, Viatcheslav ドイツ**
2017年3月30日～2017年4月15日
「淮南子 (Huainanzi) における光と闇の象徴主義—比較研究」と「丸を四角にする：中華民国における進化と再生の言説」の研究 (浜渦辰二教授受入れ)
- Kudoyarova, Tatiana ロシア**
2017年4月1日～2018年3月31日
現代日本語の略語に関する研究 (石井正彦教授受入れ)
- 麻 子軒 (Ma Tzuhsuan) 台湾**
2017年4月1日～2018年3月31日
無生物主語他動詞文の日中対照研究 (石井正彦教授受入れ)
- Lipman, Jana Kate アメリカ合衆国**
2017年6月1日～2017年6月14日
アメリカ帝国と中米および東南アジアの難民問題に関する史的研究
(中野耕太郎教授受入れ)
- 簡 月真 (Chien Yueh-Chen) 台湾**
2017年6月10日～2017年9月24日
宜蘭クレオールのモダリティ (渋谷勝己教授受入れ)
- 馬 曉林 (Ma Xiaolin) 中国**
2017年7月1日～2017年8月10日
元史・モンゴル史・内陸アジア史に関する研究 (松井太教授受入れ)
- 余 佳韻 (Yu Chiayun) 台湾**
2017年9月1日～2018年8月31日
南宋詩詞における都市景観に関する研究 (浅見洋二教授受入れ)
- 張 偉品 (Zhang Weipin) 中国**
2017年8月30日～2018年8月29日
日本に保存される中国戯曲文献、及び1949年以前の関連新聞記事の調査研究。
日本伝統演劇の現状に関する調査。1949年前日本所蔵の中国戯曲レコード研
究。伝統芸術の伝承と教育に関する考察 (中尾薫准教授受入れ)
- 姜 凌 (Jiang Ling) 中国**
2017年8月30日～2018年8月29日
日本伝統芸能の演技伝承；日本伝統芸能の教育と現状の調査研究、及び日本伝
統芸能の演技と中国伝統戯曲の演技についての比較研究 (中尾薫准教授受入れ)
- Kasem, Phenpinant タイ**
2017年7月1日～2018年6月30日
国際ジョイントラボラトリー「日本・ASEAN グローバル哲学研究交流ラボ
ラトリー」(大阪大学国際共同研究促進プログラム、タイプB) 設置準備、講演
とセミナー (望月太郎教授受入れ)
- Lee Youngho 韓国**
2017年3月1日～2017年3月31日
在日朝鮮人の結婚・帰化・国籍研究 (宇野田尚哉教授受入れ)

国際連携室 Facebook

<https://www.facebook.com/IROGSLOU>編集・発行 文学部・文学研究科 国際連携室
伊東信宏・丁愛美・内田多鶴

発行日 2018年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町1-5